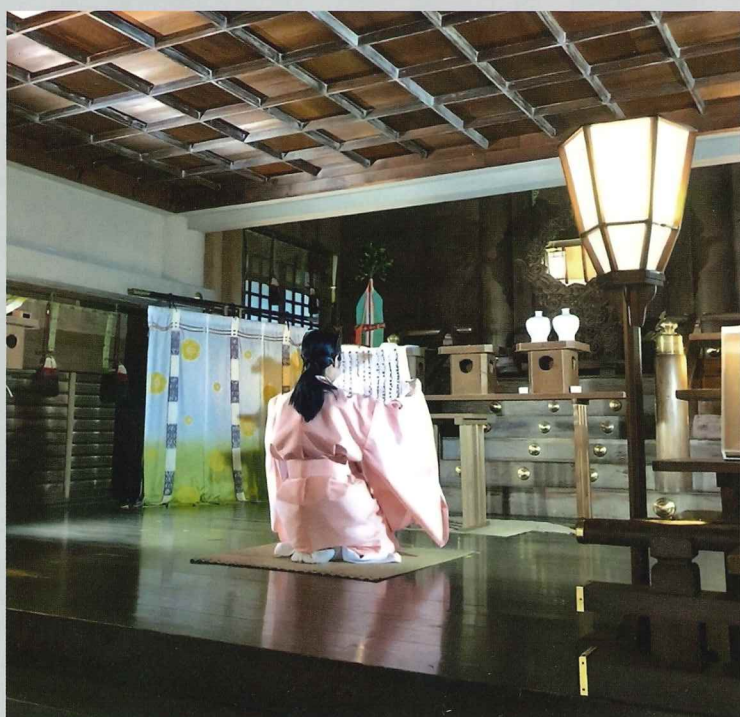


神楽



全国一斉奉仕
新型コロナウイルス感染症早期終息祈願祭



令和元年度 定例総会

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からオンラインリモート形式で令和二年四月十七日（金）に定例総会が開催され、会長以下二十名が出席した。

会長挨拶後、大野副会長を議長に選出し議事へと入り、会務報告、一般会計並びに特別会計決算報告、創立七十周年記念事業報告並びに会計決算報告が夫々行われた。そして監事から会計監査報告が行われ、其々承認された。

次に、近年、全国各地で自然災害が多発していることから、被災地域への救援を迅速に行えるよう災害対策委員会を設置したことが報告された。

議事の最後には、令和二年度活動方針並びに事業計画案、同会計予算案が審議され、承認された。

初めてのオンラインリモート形式での会議に少し戸惑いながらも無事に進行することができたが、

画面越しに会員と会うのは少し寂しい感じもあり、一日も早く普段の日常生活が戻ることを期待した総会となった。



会務報告

令和二年 四月

十七日 令和元年度定例総会 Web

五月

六日 新型コロナウイルス感染症早期終息祈願祭 県下各社

六月

二十五日 第一回役員会 十九名出席 Web
二十五日 第二回役員会 十九名出席 (Web含む) 神社庁

七月

十八日 福祉活動「白塚海浜清掃奉仕」十一名参加 白塚海岸

八月

二十五日 第四回役員会 十六名出席 (Web含む) 神社庁

九月

一日 三重県神道青年会 ホームページ公開
十四日 三重県神道青年会活動並びに新型コロナウイルス対策アンケート実施
二十四日 第五回役員会 十八名出席 (Web含む) 神社庁

十月

十四日 神宮大麻頒布促進チラシ作製（二万枚）福祉活動「命を繋ぐボランティア献血協力」ポスター作製（千枚）
十九日 神道青年東海地区 特別講演会 演題「戦前から続く神社神道の教学的課題」Web

二十三日 第六回役員会 十三名出席 (Web含む) 神社庁

二十六日 新職員交流会 十七名出席 伊勢市内

十一月

十九日 第七回役員会 十七名出席 (Web含む) 神社庁

二十五日 神青協 臨時総会 会長出席 神社本庁

十二月

十二日 全国氏子青年協議会主催 神宮新穀献米奉納助勢 四名参加 神宮

十三日 全国氏子青年協議会主催 神宮新穀献米奉納 会長出席 神宮

十八日 第八回役員会 十二名出席 (Web含む) 神社庁

令和三年 一月

二十七日 二見興玉神社・神宮・猿田彦神社参拝 十一名参加 伊勢市内
第九回役員会 十七名出席 (Web含む) 神社庁

二十八日～二月十四日 国旗掲揚の啓発のためのアンケート実施

二月

十一日 建国記念の日啓発活動 国旗掲揚チラシ・クリアファイル作製（二千枚）
十九日 神青協 創立七十周年記念事業 竹島領土平安祈願祭一斉奉仕 県下各社

二十五日 第十回役員会 十七名出席 (Web含む) 神社庁

三月

八日 北部・中部ブロック研修会 十名参加 四日市内
十一日 東日本大震災発災十年復興祈願祭 五名奉仕 神社庁

十五日 神宮ブロック研修会 三十三名参加 Web
二十二日 南部ブロック研修会 七名参加 南伊勢町

二十五日～二十六日 県外研修会 四名参加 広島県内
二十九日 第十一回役員会 十八名出席 (Web含む) 神社庁

三十一日 会報「榊葉」発行（千五百部）



新型コロナウイルス
感染症早期終息祈願祭

「三重県緊急事態措置」の延長が前日に報道され、県内でも新型コロナウイルス感染症拡大について予断を許さない状況下の五月六日(水)、「新型コロナウイルス感染症早期終息祈願祭」が斎行された。

これは神道青年全国協議会が、同日に全国一斉の斎行を呼びかけたもので、それに応じた全国の青年神職が、おもいをあつめ心をひとつにして祭典を奉仕した。

三重県下でも、この時代の大転換期の中今に立つ我々青年神職の職分を果たすべく、それぞれに奉務神社において斎行し、祈りの先にある大切な人をおもい、一日も早い国難の終息と清らかで平穏な日々が訪れることをご祈念申し上げます。

竹島領土平安祈願祭



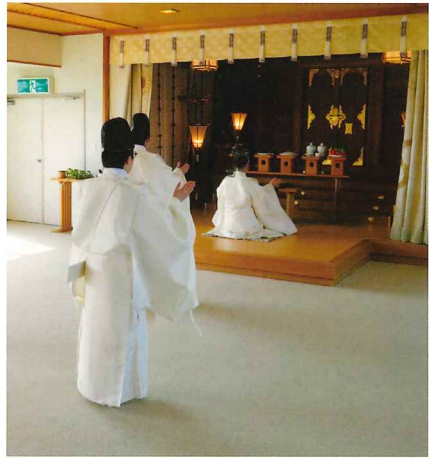
令和三年二月十九日(金)、神道青年全国協議会の呼びかけのもと、全国の会員の奉務神社に於いて、「竹島領土平安祈願祭」が一斉に斎行された。

これは神青協が創立七十周年を迎えるにあたり挙行したもので、竹島は今日まで半世紀以上も韓国に不法占拠されている我が国固有の領土であり、同会は平成二十六

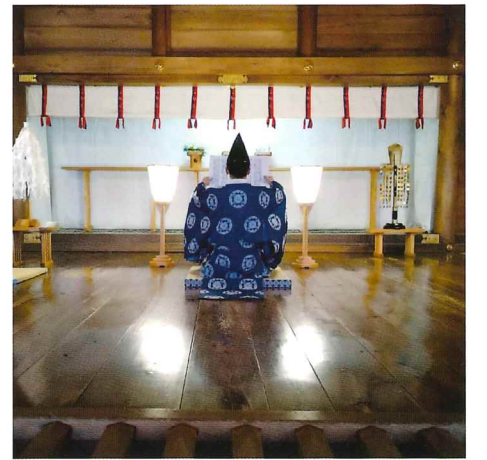
東日本大震災
被災十年復興祈願祭

平成二十三年三月十一日午後二時四十六分、東北地方太平洋沖地震が発生。直後に襲った大津波や火災により、東京電力福島第一発電所の事故を伴い、東北地方を中心に二万二千人余りの死者・行方不明者を出す未曾有の大災害となった。

被災から十年の月日が経った令和三年三月十一日(木)、神道青年全国協議会が東北に於いて斎行する「東日本大震災被災十年物語者慰霊祭」に併せて、当会も復興祈願祭を斎行した。



三重県神社庁の神殿に於いて、



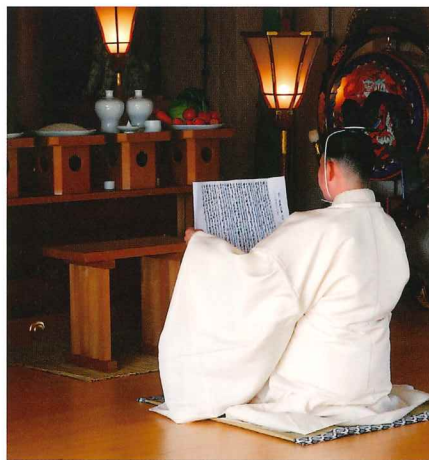
年に竹島に所縁が深い島根県隠岐の島町久見に「竹島の碑」を建立している。

その呼びかけに答え、当会でも各々の会員が、「竹島を始め島々が元の正しい姿に復し、国民や国防に勤しむ方々が平安無事になり、四海万邦が穏やかに共存共榮すること」を祈願した。



吉田副会長を齋主に役員四名が祭員として奉仕。神饌には、福島県神道青年会から奉獻された御饌米も共進され、祭員一同未だ復興途中である被災地へ心を致し、早期の復旧と復興を祈願した。

祭典終了後、被災時刻の午後二時四十六分に黙禱を捧げ、この大災害



によってお亡くなりになられたすべての御霊の安らかならんことを、そしてまだまだ道半ばである地域社会の復興と、被災された方々の心の復興が力強く進むことを願い、今後も祈り続けていくことを誓った。



全国各神社 御神符御社頭授与品 奉製所

伊勢國産合資会社

〒516-0025 伊勢市宇治中之切町87
TEL 0596-22-2960
FAX 0596-22-2335

◎多少にかかわらず御用命ください。

太鼓作り900有余年
本木製ならではの品格と質の高さは最上級

原木・原皮からの一貫生産工場直売

在庫豊富 各品速納 カタログ送付

諸太鼓製造元 津島神社他多数御用達

◎神社・仏閣・教会用◎雅楽・能楽用各種◎祭礼用・舞台用・他

堀田新五郎 商店

☎(0567)26-2412(代)
愛知県津島市新田町5丁目123 FAX24-7663

おどろき屋 新設 新設

のぼりや

伊勢市 宇治中之切町

営業時間
am11:00 ~ pm:9:00
(ラストオーダー8:00)

お食事・ご宴会等ご予約お待ちしております
TEL 0596-22-5480

新型コロナウイルス対策に関するアンケート報告



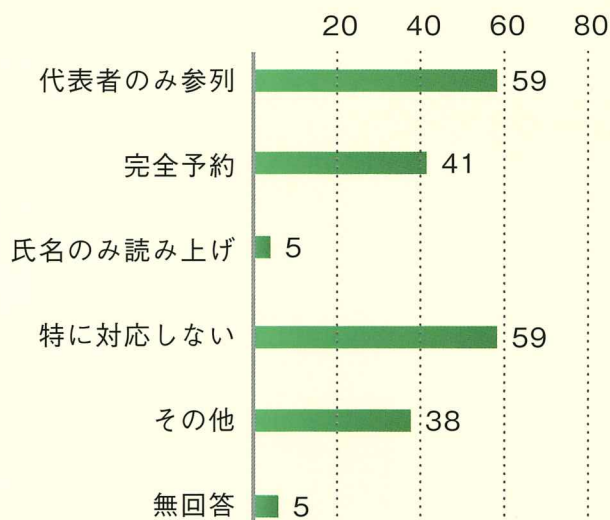
教化研修委員会では県内神社の新型コロナウイルス対策について情報共有することを目的として、県下の宮司様を対象にアンケートをお願いした。県内の神社は規模も環境も多様であり、中々足並みの揃った対策は難しく、中には相反する対応をお考えの回答もあった。しかしこの状況を、一致団結して乗り越えていく努力を続けていきたいと考える。

回答数 193/296



質問①

正月の繁忙時等、御祈禱はどのように対応致しますか



【設備関係】

接遇の菓子、お茶は中止・毎年の方は郵便連絡・マスク着用を依頼・消毒の周知と常備

○完全予約の具体的施策

【時間関係】

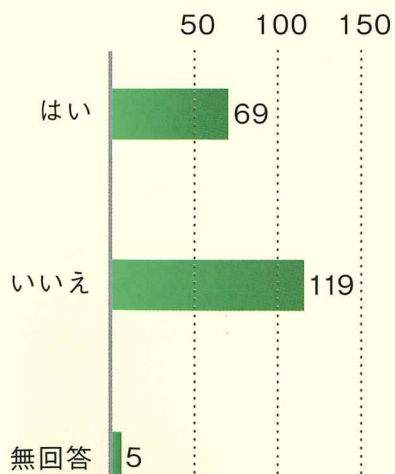
密を避け、間隔を空ける・時間を区切る・一月四日以降で予約制

【人員関係】 人数制限（一〜四組ずつ奉仕、密を避ける）・個別に日時予約

【設備関係】 屋外で間隔を確保して執行・タイムスケジュールの構成

質問②

正月の繁忙時等、総代や外部からの助勢(臨時の巫女等)を依頼しますか



○具体策

【人員関係】

奉仕総代を増員、対応し分担化・初めての助勢者等は不採用・行事中参列者対応を責任役員に依頼・巫女衣装は着衣せず、雑衣のみにする(更衣室が密になる為)・助勢人数を減らす・授与所での助務を地元の学生に依頼

【設備関係】

マスク、フェイスガード、消毒液、検温の徹底・密にならないよう境内調整

【行事関係】

振る舞いの中止・御神酒等の振る舞い時手袋着用、使い捨て紙コップ、紙皿を使用・かがり火の規模を縮小(人数、穴の大きさ等)

質問③ 正月等の授与品・お札・縁起物等の陳列はどのように対策致しますか

【人員関係】

職員のマスク着用・折敷を使うなど直接接しない方法を検討・氏子へ事前配布・無人頒布(初穂料は賽銭箱)・総代や組長の協力で配布・予め透明の袋に入れた授与品を渡す

【授与品関係】

縮小または取り止め・広めの陳列・見本陳列で参拝者に触れさせない(番号を聞いて授与)・

質問④ 年末年始参拝で密を避ける対策

【人員関係】

マスク着用、手の消毒、三密防止等を依頼・総代が参拝者の間隔を指導・混雑しない時間の参拝を呼びかけ・啓発ポスターを掲示し自己判断に任せる・掲示、回覧等で間隔を保つ参拝を周知

【設備関係】

鈴緒の撤去や不使用にする・参拝者の整列時間隔を保つ・密になる時間帯ロープを張る・消毒や検温する、させる・手水布の撤去・手水舎の柄杓の撤去・受付にビニールシート、手指消毒、マスク準備、案内きめ細かくする・一方通行になるようにする・イスの間隔を空ける

【行事関係】

振る舞いなどの簡素化または中止・正月三日のかがり火を一日に縮小・拝殿へ上がってのお参りを中止・初詣接待行事の中止

質問⑤ 年始以降の行事対策

【人員関係】

一般参加者をなくし、総代や代表者、関係者のみ・人数を絞り、短時間で斎行

【設備関係】

席の間隔をとる・入口に消毒液を置く・一組ずつ御祈禱を奉仕する

【行事関係】

マスク着用を依頼しもち撒き行事を行う・豆撒き回数を減らす・餅撒きや豆撒きの中止(参列者に手渡しする)・行事の実施日を増やす・広告しない・行事は中止

【祭典関係】

伝供は行わない(蓋の開閉のみ)・玉串は宮司にあわせて全員が列拜・拝殿外にて斎行・直会は中止・時間の短縮、規模の縮小等を行う

※より詳細な報告については三重県神道青年会のホームページをご覧ください。

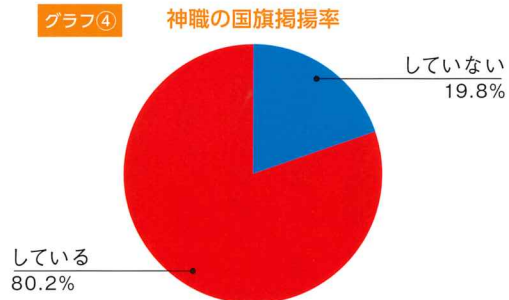
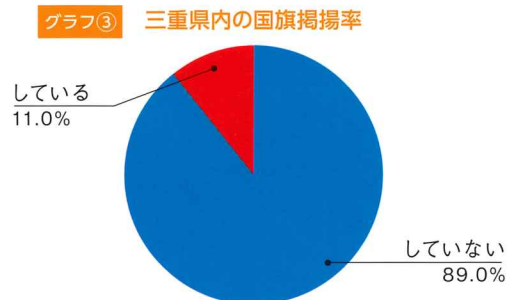
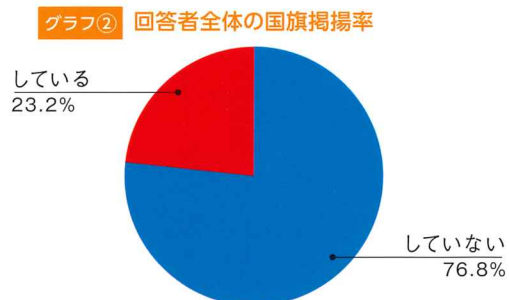
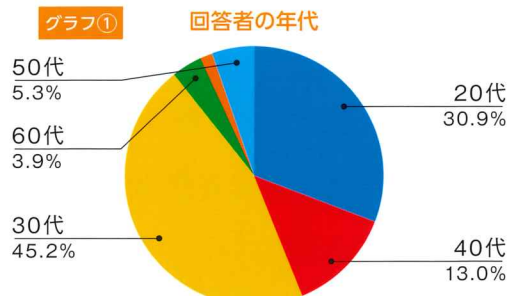


国旗掲揚アンケート
調査報告



このアンケートは、我々が行う国旗掲揚啓発活動の一環として、令和三年一月二十八日から二月十四日までの十八日間、当会ホームページとFacebook上において実態の調査を行った。六二三名という多くの方に協力をお願いしたこと、一定の成果を得ることができたので、ここに結果を報告する。

六二三名のうち、神職回答が一二〇名、一般回答が五〇三名で、決して神社関係者に偏ったアンケート結果ではないと言える。また回



答年代については、二十〜四十代の回答が全体のほぼ九割を占め(グラフ①)、我々青年会と同世代の実態が多く反映されている。全体の国旗掲揚率は明らかに低く、二・三・二%に留まった(グラフ②)。県内に絞ればさらに数字は低くなり、僅か一・一%に留まっている(グラフ③)。その中において神職の掲揚率は八〇・二%と高く(グラフ④)、いかに一般の方と意識の差があるということが浮き彫りになった。

国旗を掲揚していないと回答した人全体の八二・四%が「国旗を持っていない」と回答し、全体の三八・七%が「掲揚する場がない」と回答しているが、「国旗を掲揚することに抵抗がある」との回答は少なく(五・八%)、「掲

揚の意義が分からない」との回答が一定数(一五%)であること、また、掲揚していない方の「国旗の歴史や意義」への興味(四〇%)、「祝日の意義や解説」への興味(三六・二%)などの結果から、今後の啓発の可能性が見出されたように感じる。

影響が大きいと思われた、家族形態については国旗掲揚をしている方としていない方では「戸建て」と「アパート・マンション」の数値に差が出ているように見受けられる(グラフ⑤、⑥)。

また、個別の意見を紹介すると、

- ・「国旗掲揚の意義を国民にわかりやすく説明し、理解してもらおう場やSNSでのアピール活動が大切だと思います。」(三十代会社員)
- ・「国旗に関して関心がなかったため、考えるいい機会になりました。」(二十代会社員)
- ・「意味を伝えれば広がると思う。」(三十代経営者・会社役員)
- ・「国旗は右翼のイメージが強い。左翼に狙われそうな怖さがある。」(三十代自由業・自営業)
- ・「この機会に改めて考えてみようと思います。」(五十代自由業・自営業)
- ・「大学では祝日や正月などは国旗掲揚をしています。国に対する気持ちを持つということ

は大切だと思う。強要では無いがそういった自国愛というものは日本人に限らず全ての方々が持つべきでその自国を良くしようという思いが日本の発展につながるのだと思う。」(五十代大学教員)

「国旗の掲揚に興味がない人や、する必要を感じない人が多いと思うので、なぜ国旗の掲揚をするのかなど広めていくのも良いのではないかと思います。」(二十代会社員)

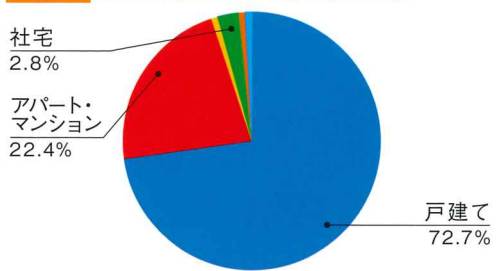
「国旗の掲揚を入手したらやってみたいと思いました。」(二十代会社員)

「国旗掲揚の祝日、という事を忘れてしまうくらいに祝日の意味が薄れてきているのが悲しいと思う(ただのお休みの日になっている)。(何かもっと啓発できればいい)。(三十代神職)

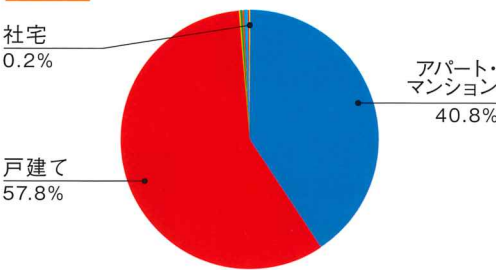
など、国旗への関心について今後の活動に対する示唆的な点、このアンケート自体が考えるきっかけとなっている点、その他右翼的イメージをはじめとする、我々が伝えるべき本来的理解との乖離がある点など、今後の課題をより鮮明にしてくれるものが多くあった。

以上のことを踏まえ、来年度以降、より効果的な啓発活動を行えるよう、結果について更なる精査を行い青年会活動の活発化の一助としていきたい。最後にこの度ご協力頂きました皆様には、御礼を申し上げます。

グラフ⑤ 国旗を掲揚している方の住居形態



グラフ⑥ 国旗を掲揚していない方の住居形態



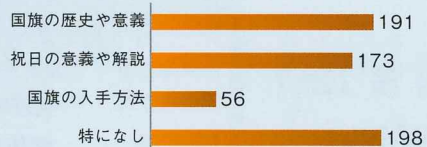
グラフ⑦ 国旗を掲揚している理由
(複数回答可)



グラフ⑧ 国旗を掲揚しない理由
(複数回答可)



グラフ⑨ 以下の選択肢から国旗掲揚について興味のあるものはありますか
(複数回答可)



命を繋ぐ ボランティア
献血へのご協力をお願いします
SDGs 目標11 持続可能な都市づくり
SDGs 目標16 公正で包摂的な社会

三重県献血ルーム 西日南支店 TEL: 0120-99-9883
三重県献血ルーム 伊勢南支店 TEL: 0120-99-9883
三重県献血ルーム 伊勢北支店 TEL: 0120-99-9883
三重県献血ルーム 伊勢東支店 TEL: 0120-99-9883
三重県献血ルーム 伊勢西支店 TEL: 0120-99-9883

本年は、新型コロナウイルス感染症拡大防止に努めながら何が出来るかを考える中で、兵庫県道青年会の同志が献血リレーチャレンジを行っている事がわかった。そして、三重県内でもコロナ禍の外出自粛により血液が不足している事を知り、当会でも福祉活動の一環として、微力ながら献血協力を行っていく運びとなった。

毎月担当の委員会を決め、青年会員による献血の協力を行い、当会のホームページやFacebookで発信した。

また、献血協力を周知・喚起する為にポスター「命を繋ぐ」ボラ



この日は「建国をしのび、国を愛する心を養う日」であり、初めて天皇の位におつきになられた神武天皇さまが大和の橿原に都を定め、神々をおまつりした日であることを改めて広く理解して頂く大切な活動である。

二月十一日の「建国記念の日」に向けて、チラシとファイルを作製、配布して周知を図った。本年はコロナ禍の為、例年の手渡しによる活動は中止となったが、役員奉務神社にご協力を賜り、社頭での配布という形をとった。



今年コロナ禍という特殊な状況で始まった献血協力の活動であるが、世の中が平穏に戻ってからも継続し、当会の通常の事業として今後も実施していきたい。

「ボランティア」を作成し、三重県内の各神社様に掲示のご協力頂き、県内全域に呼びかけを行った。

この度の一連の活動が認められ、日本赤十字社様より御礼状を頂戴した。



三血 献 第 3 号
令和3年3月9日

三重県神道青年会 御中

三重県赤十字血液センター
所長 岡田 昌彦

献血へのご協力について(お礼)

貴団におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。平素から献血活動につきましては格別のご理解とご協力を賜り誠に有難く厚くお礼申し上げます。さて、過日は職員の皆様にご協力いただきまして心より感謝申し上げます。今後とも、県民医療に必要な輸血用血液が不足することのないよう安全確保に努力を重ねてまいりますので、ご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

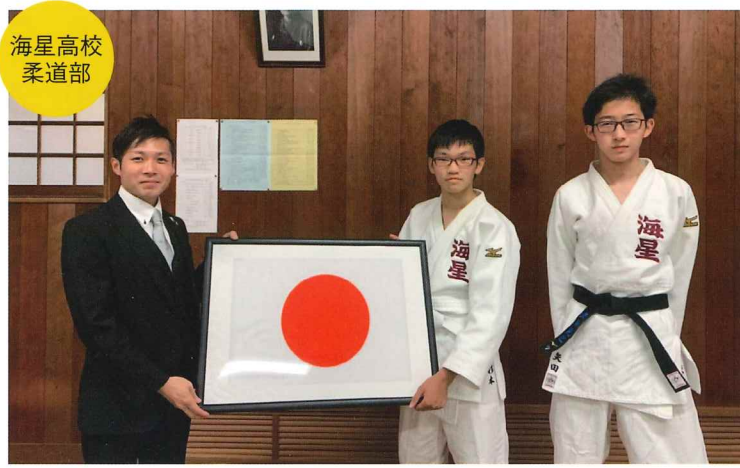
記

献血協力年月日 令和2年6月19日(月)～令和3年2月28日(日)

献血受付数	27 名	献血者数	27 名
(内訳)		(内訳)	
200mL献血	2 名	400mL献血	22 名
成分献血	3 名		
献血しただけであった人	0 名		
(内訳)		献血量不足者	0 名
		その他	0 名

※献血量は、血液中のヘモグロビン量です。

【担当窓口】三重県赤十字血液センター 献血推進課
TEL 059-229-3582
FAX 059-229-3614
担当 竹内、大西



近年、一般社会において国旗そのものと疎遠になってきていることを憂い、祝祭日に家々で国旗が翻る光景をもう一度取り戻したいとの思いから、我々青年神職が国旗掲揚の様子をSNSで発信していくことを第一歩とした。続いて、一般の方々を対象に国旗掲揚に関

するアンケートを実施した。(八・九頁参照)

また、令和二年度より啓発活動の一環として、国旗の贈呈を行っており、私立海星高校柔道部様、松阪市の柔道場・相承館様の二ヶ所に国旗を贈呈し、道場内に掲げていただいた。今後も少しずつではあるが、国旗を身近なものとして親しみを持っていただけるような活動を展開していきたい。



祈る心によりそう御守づくり
京の伝統に真心を込めて

◆ 京都奉製株式会社

京都本社 / 東京営業所 / 仙台営業所
福岡営業所 / 東海営業所 / 広島営業所

☎ 0120-164124 (イロヨイニシキ)
京都奉製のHPがリニューアルされました!
是非ご覧ください。https://www.omamori.co.jp/

神祭具 授与品 記念品 奉製

株式会社 神路社

本 社 三重県伊勢市岩瀬2丁目5番29号(私書箱第26号)
〒516-8611 電話番号 0596-24-5858 FAX 0596-24-5110
E-mail info@kamijisya.co.jp

神 苑 東京都渋谷区恵比寿1丁目26番14号ACTビル4階
(東日本営業所) 電話番号 03-3280-6720 FAX 03-3280-6721
〒150-0013 E-mail info-tokyo@kamijisya.co.jp

URL http://www.kamijisya.co.jp

神祭具御装束調進

鈴木半三郎商店

〒516-0077 伊勢市宮町1丁目12-7
(TEL) 0596-23-1881
(FAX) 0596-23-0202

社殿造営
かやぶき神殿・神具
御霊舎・丸曲製造
設計・施工・販売卸

有限会社 俵田屋

代表取締役 田中 弘 紀
伊勢市宇治浦田1丁目10-38
☎(0596) 22-3905(代)
FAX (0596) 22-3908

ホームページは はじめました

この度、更なる広報活動の一環として、令和二年九月一日にホームページを開設しました。
今後も掲載内容の更なる充実を図って参りますので、内容等ご意見ご要望がございましたらお知らせ下さい。



詳細はこちら



自塚海岸 清掃奉仕

SDGs



七月十八日(土)、社会福祉活動の一環として、津市の白塚海岸清掃奉仕活動に当会の十一名が参加した。
新型コロナウイルス感染予防から開会式は執り行われず、午前七時過ぎより各自海岸線に広がりゴミ拾いを行った。
砂浜には自生する植物に紛れ



て、ビンの破片や空き缶、ペットボトル、プラスチック片、なかには冷蔵庫の扉なども落ちていた。
持続可能な社会が意識されている現在、ペットボトルやストローといった身近なゴミを拾っていくなかで思ったことは、「海の豊かさを守る」には地道な清掃活動は勿論のこと、「つかう責任」として各々がゴミを適切に捨てることが大事だと、当たり前のことながら、痛切に感じる奉仕であった。

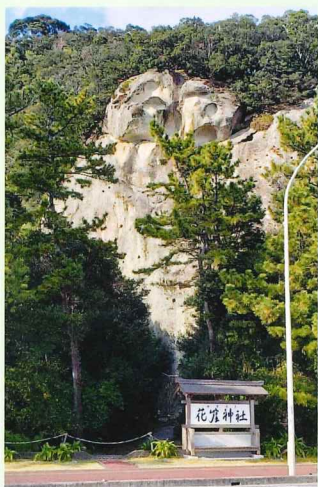


神宮大麻頒布増体に向けた取り組み

平成二十九年度より神宮大麻頒布促進活動として三ヶ年

日本書紀の すすめ

詳細はこちら



さいくう平安の杜「正殿」

令和二年は「日本書紀」

撰上千三百年の節目であることを機に、興味を持ってもらうことを目的として当会のフェイスブックで「日本書紀」に関連のある事柄を第十二回まで紹介。

内容は「美し国」「三重の采女」「日本書紀」と忍者」「地震とナマズ」「斎王について」「祈りのチカラ」など。
まとめたものを、ホームページ特設サイトで写真とともに紹介しているのではありません。
非ご覧ください。

SNSで 情報発信中!



御装束・調度・各種祭礼衣裳(神楽等) 授与品 御調整

有職工房

代表 江原永容

〒六〇二一〇〇二二

京都市上京区上御霊前通

室町東入内構町四二四一

電話 〇七五-四一七-三三二七

FAX 〇七五-四四一-三三七六

フリーダイヤル

〇二〇一六四一八八五五

HP <http://yusokukoubou.com>

創業 明治以前



各種御神符・守札 その他授与品全般

湊御神符奉製所

株式会社 湊

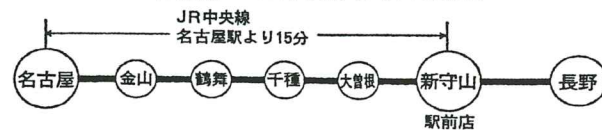
伊勢市神宮会館前(〒516-0025)

TEL(0596)22-2442(代表) FAX(0596)28-8445
info@ise-minato.co.jp

社寺建築・設計施工 御装束 調整=御遷宮
御調度品 鎚金具

神社・寺御用 株式会社 甲村

〒463-0069 名古屋市守山区新守西1608
電話 (052) 792-1202
FAX (052) 792-1293
御来店は JR中央線新守山駅前店へ



神殿 神祭具 設計 製作 施工 販売

株式会社 宮忠

みやちゅう



企業案内サイト

各種研修会



■北部・中部ブロック研修会



三月八日(月)、四日市市北消防署内の防災教育センターに於いて北部・中部ブロック研修会を開催した。

前半はプロジェクトを使ったの講習会で四日市市消防本部管内に於ける火災や救急等出動状況の説明をはじめ、東日本大震災より十年を迎える事から当時の救助活動の様子などを詳細に語って頂いた。

後半は災害の状況の疑似体験として起震車にて震度四〜七の揺れを経験した。強烈な揺れであり、しっかり踏ん張っていなければ飛ばされてしまいそうでかなりの恐怖を感じた。続いて消火器の使い方を教わり参加者各々が火に見立てた三角コーンに向けて噴射した。

最後には煙が充満した室内からの避難訓練を行った。ホテル等の建物内で火災に遭遇してしまった場合などを想定してのもので、参加者二名ずつ体験。中に入ると暗闇と煙で視界が不良になり身を屈め、壁伝いに協力しながら何とか外に出る事が出来た。

この度の研修を通じて地震や火災の疑似体験をする事により、今後発生するといわれる南海トラフ大震災など何時遭遇するかわからない災害に対して日常より備えをしつかりしておかねばならないと考えを新たにすることが出来た。



■南部ブロック研修会



三月二十二日(月)、南部ブロック研修会が行われた。「伊勢麻講習会」として、皇學館大学教授の新田均先生並びに(株)伊勢麻代表取締役の松本信吾先生よりご講演をいただいたのち、伊勢麻農家の谷川原健様のご協力で加工場の見学をさせていただいた。当日は、青年会会員八名と皇學館大学学生二名、計十名の参加となった。

伊勢麻がどのように始まったのか、麻作りの工程、神道と麻との関わり、日本文化と麻、そして他県の麻農家との扱いの違いによる伊勢麻の現状をご講演いただいた。

その後伊勢麻の加工場を見学、実際に工程のご説明をいただき、麻を身近に感じると共に、今後神職としてのどのように麻と関わってゆくべきかを考えさせられた研修会となった。



■神宮ブロック研修会



三月十五日(月)、神宮ブロック研修会を開催した。感染症拡大防止の為オンラインリモート形式での研修会となった。

今回は「近代の神宮」と題して神宮宮掌であり当会副会長でもある赤尾洋輔氏が講演し、三十三名が参加した。

研修会では明治四年の神宮御改正を中心に、内宮禰宜の荒木田氏、外宮禰宜の度会氏の世襲廃止や物忌、内人といった職掌の廃止、全国へ御祓大麻を頒布し伊勢信仰を広めた御師の活動の停止などの説明があった。

神宮少宮司も務めた浦田長民の紹介もされ、御改正の活動を先頭に立って活躍したこと、また八咫鏡を宮中に移す「神宮御動座問題」に反対したことを知り非常に興味深い内容であった。

また、江戸時代の伊勢参宮の様子を「伊勢参宮名所図会」で拝見し、現在の域内との相違点など挙げられ分かりやすい解説であった。激動の時代を乗り越えた神宮の歴史を知る貴重な研修会となった。



■県外研修会

三月二十五日(木)から二十六日(金)にかけて、一泊二日にて会長以下四名は広島県へ向かった。本年度の県外研修会は、コロナ禍のため開催が延期されていたものの、三月二十二日に緊急事態宣言が全面解除されたのを受け、ようやく開催するに至った。

一日目は、広島東照宮を正式参拝した後、広島県神社庁を表敬訪問した。続いて、広島護國神社を参拝し藤本武則宮司様より神社の成り立ちや、コロナ禍での神職の心構えを説いて戴いた。その後、広島県青年神職有志一同と意見交換会を開き、青年神職がコロナ禍の今出来ることについて話し合った。

二日目は、福山八幡宮を正式参拝し、同宮の禰宜でもある広島県青年神職会監事吉川泰正様より神社の説明を承った後、吉川監事様を交えて青年神職の役割について意見を交わした。

コロナ禍で県外からの往来に気を配る中で、広島県青年神職会が我々を暖かく迎え入れてくれたことに感謝するとともに、広島でも私たちのような青年神職がコロナ禍に諦めることなく真摯に職務に取り組んでいることを目の当たりにし勇気を戴いた。参拝者が神社から離れてしまいかねない中、各社は参拝者と神社の結びつきが途切れないよう工夫し努力を重ねていた。神職の「なかとりもち」としての役割を改めて学び、実り多い研修となった。



創業260年の
伝統技術 桑名 **和太鼓** 造り
創業宝暦三年 御太鼓師 八代目 阿部甚兵衛

阿部太鼓店

心に響く確かな技

桑名市下深谷部645 (高砂町)
(大桑国道258号線深谷陸橋下西へ50m)

☎(0594)29-1110(代)
FAX(0594)29-3405

えと土鈴・各種土鈴・額皿・人形・御社紋入盃
名入湯呑・素焼製品・その他オリジナル陶製品

神宮司庁御用達

いつき陶苑

〒515-0321 三重県多気郡明和町斎宮2432-1
Tel 0596-52-5702
Fax 0596-52-3713

神酒 三重の新嘗 醸造元
清酒 宮の雪

株式会社 宮崎本店

ISO9001・ISO14001 認証取得企業

四日市市楠町南五味塚972
電話 (059) 397-3111
www.miyano-yuki.co.jp

総合カタログ進呈

社殿・調度品・神祭具・御装束

伊藤商会

〒470-0131 愛知県日進市岩崎町ケカチ4-3
フリーダイヤル ☎ 0120-192381
電話 0561-74-5110
FAX 0561-73-1472
ホームページ https://itousyoukai.jp



十月二十六日(月)、好天に恵まれた中で令和二年度の新職員交流会が行われた。今年度はコロナ禍の影響で例年のようなスポーツではなく、グループワークを中心とした意見交換会という内容で、新職員六名を迎えての開催となった。「より良い神社界への第一歩」というテーマに基づき、三重神青



役員と新職員が互いに自分の意見を出し合った。今日からできる行動などについても話し合い、有意義な交流ができた。また、国旗掲揚の意義を理解し、少しでも身近に感じてもらうべく、新入会員に国旗セットを記念品として贈呈をした。

新職員交流会

SDGs

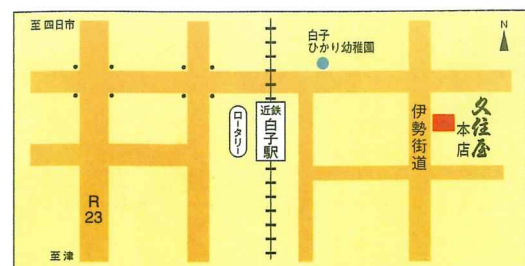


あなたの本づくり
サポートします!

- 自分史
- 句集
- 歌集
- 写真集
- 画集
- エッセイ

お問い合わせは
株式会社オリエンタル良書出版事業部まで

株式会社オリエンタル TEL 059-245-3111
三重県津市河芸町上野2100番地 FAX 059-245-1177 <http://ryosho.apgl.jp/>



久住屋茶舗

●本店 鈴鹿市江島本町 7-13 TEL (059) 386-0142
<毎週月曜定休日> FAX (059) 386-8385

災害対策委員会発足・災害倉庫設置



近年の自然災害に際し、当会では被災地域へ青年神職ならではの迅速な復興支援活動と、情報収集や共有を行い、また問い合わせ窓口を一元化すべく、令和二年三月三十日に災害対策委員会を発足した。

昨年度は会員の中から、三名がユニボの運転技能を取得し、実際



に長野県千曲川流域の復興支援活動において活躍した。今年度の令和二年七月豪雨ではコロナ禍の為に現地での活動は叶わなかったが、出来る限りの支援物資を現地に送った。

また、今後の復興支援活動に必要な道具や、さまざまな支援物資の収納庫として、大型の倉庫を社庁敷地内に新たに設置した。さつ



そく過去の支援活動経験を活かして、会員同士のタオールを持ち寄り保管した。三重県においても近い将来、南海トラフ巨大地震の発生が囁かれている。いつ起こるのか分からない自然災害だけに、今後も防災や減災の正しい知識を身につけ、あわせて倉庫内の備蓄強化に努めていきたい。

SDGs



スタジアムへGO!!
なでしこリーグ1部
3/28 (日) 開幕

詳細はHPで!
HPQRコードはこちら!



伊賀FC KUNOICHI 三重

三重県伊賀市土橋61番地
TEL 0595-24-2564

寒紅梅酒造株式会社
Kankoubai Sake Brewery

創業安政元年(1854年)
清酒 梅酒 寒紅梅

〒514-0103 三重県津市栗真中山町 433 番地
TEL 059-232-3005
FAX 059-232-3025

<http://www.kankoubai.com>

東日本大震災発災十年復興祈願祭



全国一斉奉仕
竹島領土平安祈願祭

三重県神道青年会報 神葉 第47号

発行日：令和3年3月31日

発行者：宇治土公 祐高

編集：総務広報委員会

発行所：三重県神道青年会

津市鳥居町210-1 三重県神社庁内